小倉記念病院麻酔科専門研修プログラム

（地域中核病院としてのプログラム）

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

本研修プログラムでは，地域医療に特化した連携施設での研修を特徴とし，研修終了後は，福岡県の地域医療の担い手として県内の希望する施設で就業が可能となる．

小倉記念病院は、成人患者のみに対応しているが、心臓手術症例、脳神経外科手術症例に特徴があり、循環器疾患、脳神経疾患については、北九州医療圏の中で、機能別救急医療体制の枠組みのもとに、24 時間受け入れ態勢を敷いている。循環器合併非心臓手術の麻酔症例も多く経験できる。集中治療にも力を入れている。

基幹施設である小倉記念病院，連携施設である福岡市立こども病院，さらに、山口大学，琉球大学、昭和医科大学横浜市北部病院、北九州市立医療センター、産業医科大学、熊本大学、兵庫県立こども病院、長崎大学、四国こどもとおとなの医療センター、健和会大手町病院、聖隷浜松病院、川崎医科大学、北九州総合病院において，専攻医が整備

指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間は，専門研修基幹施設で研修を行う．
- ３年目に山口大学病院などにおいて5～6ヵ月間の研修を行い，ペインクリニックや集中治療を含む様々な症例を経験する．
- 地域医療の維持のため，４年目の5～6ヵ月間は、昭和大学横浜市北部病院などで研修を行い、専攻医のニーズに応じてこども病院などをローテーションできる．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．

- 研修の始めの1年間を含む少なくとも3年間は，専門研修基幹施設で研修を行う．
- 専門研修連携施設Aである新小倉病院では、必要に応じて呼吸器外科症例などの研修を行い、福岡市立こども病院、昭和大学横浜市北部病院、兵庫県立こども病院、がん研究会有明病院、北九州総合病院では、小児麻酔の研修などを行う。専門研修連携施設Bである山口大学医学部附属病院、琉球大学医学部附属病院、北九州市立医療センター、産業医科大学附属病院、熊本大学医学部附属病院、長崎大学病院、四国こどもとおとなの医療センター、健和会大手町病院、聖隷浜松病院、川崎医科大学附属病院のいずれかの施設では、小児、産科症例、ペインクリニックなどの経験を積むために、６ヶ月間程度の研修を行う．

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	３年目（5～6ヵ月）	４年目（5～6ヵ月）
A	小倉記念病院	小倉記念病院	山口大学病院など（ペイン，集中治療）	昭和大学横浜市北部病院など（ペイン、集中治療）
B	小倉記念病院	小倉記念病院	聖隷浜松病院など（ペイン、集中治療）	山口大学病院など（ペイン、集中治療）

週間予定表

小倉記念病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制

①　専門研修基幹施設

小倉記念病院（以下、小倉記念）

小倉記念病院

研修実施責任者：角本　眞一

専門研修指導医：角本　眞一（麻酔、集中治療）
宮脇　宏　（麻酔、集中治療）
近藤　香　（麻酔、集中治療）
松田　憲昌（麻酔、集中治療）
栗林　淳也（麻酔、集中治療）
小林　芳枝（麻酔、集中治療）
生津　綾乃（麻酔、集中治療）
柳　　明男（麻酔、集中治療）
釜鳴　紗桐（麻酔、集中治療）

研修委員会認定病院：52

特徴：心臓大血管手術のみならず、TAVR、Mitral clipなどの低侵襲手術にも力を入れている。循環器疾患を合併した非心臓手術の麻酔症例も数多く経験できる．集中治療にも力を入れている。

② 専門研修連携施設A

昭和医科大学横浜市北部病院

研修実施責任者	：信太　賢治	
専門研修指導医	：信太　賢治	（麻酔全般・ペインクリニック）
	岡本　健一郎	（緩和医療・ペインクリニック）
	西木戸　修	（緩和医療・ペインクリニック）
	坂本　篤紀	（麻酔全般・心臓麻酔）
	山村　彩	（麻酔全般）
	釋尾　知春	（麻酔全般・神経ブロック・経食道心エコー）
	髙橋　健一	（麻酔全般・心臓麻酔）
	道姓　拓也	（麻酔全般・心臓麻酔）
	荘田　博朗	（麻酔全般）
	津島　佑季子	（麻酔全般）
	谷本　翔太	（麻酔全般）
	松土　桜子	（麻酔全般）
	平井　顕	（麻酔全般）
	小野　沙恵	（麻酔全般）

研修委員会認定病院：928

特徴：手術麻酔では外科系各科のバランスのとれた豊富な症例数があるため，当院だけでも麻酔科専門医試験に必要な症例数を担当することができます．病院毎の手術症例の違いやサブスペシャルティ領域としての集中治療やペインクリニックの研修を含めて，昭和医科大学病院麻酔科を初めとした多彩な連携病院でオーダーメイドのローテーションを行います．

③　**専門研修連携施設A**

兵庫県立こども病院（以下，こども病院）

研修実施責任者：香川　哲郎

専門研修指導医：香川　哲郎（小児麻酔）
高辻　小枝子（小児麻酔）
大西　広泰（小児麻酔）
宮本　義久（小児麻酔）
上嶋　江利（小児麻酔）
末田　彩（小児麻酔）
藤原　孝志（小児麻酔）
田中　康智（小児麻酔）
上野　真穂（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号　93

特徴：小児・周産期医療専門病院として、一般的な小児外科症例や各科の小児症例のほか、新生児手術、小児開心術、日帰り手術、血管造影等の検査麻酔、病棟での処置麻酔、緊急帝王切開等、一般病院では扱うことが少ない症例経験が可能。
小児がん拠点病院、地域医療支援病院、小児救急救命センター。

専門研修指導医の所属人数（人）	本プログラム専門医研修指導医按分後の人数（人）
9	0.6

麻酔科管理症例数					
麻酔科管理全症例数	小児（6 歳未満）	帝王切開術	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科
3839	1724	125	244	5	72

④　専門研修連携施設A

長崎大学病院

研修プログラム統括責任者：原　哲也

専門研修指導医

原　哲也	麻酔
吉富　修	麻酔
山下　和範	救急
村田　寛明	麻酔
東島　潮	麻酔
樋田　久美子	ペインクリニック
一ノ宮　大雅	集中治療
石井　浩二	緩和ケア
横山　陽香	麻酔
松本　総治朗	集中治療
吉﨑　真依	麻酔・ペインクリニック
矢野　倫太郎	集中治療
高松　渥子	麻酔
宮川　花菜	麻酔
荒木　寛	集中治療
河西　佑介	集中治療
岩﨑　直也	集中治療
鈴村　未来	麻酔
横山　明弘	集中治療

研修委員会認定病院番号　第22号

特徴：長崎県の中枢を担う拠点病院である.

⑤ **専門研修連携施設A**

産業医科大学病院

研修実施責任者： 堀下　貴文

専門研修指導医： 堀下　貴文（麻酔）

寺田　忠徳（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）

山本　克己（麻酔，救急医療）

濵田　高太郎（麻酔）

橋本　航（麻酔）

原　幸治（麻酔，ペインクリニック）

専門医：瀧山　さゆり（麻酔）

安波　恵介（麻酔）

毛利　祥子（麻酔）

長友　逸朗（麻酔）

淺田　匠（麻酔）

認定病院番号：184

特徴：産業医科大学病院は，北九州唯一の特定機能病院として高度医療を提供し続けており，地域がん診療連携拠点病院としても地域において重要な役割を担っている．また，手術症例は多岐にわたっており，ほぼ全ての外科系手術の麻酔管理の研修が可能であり，特殊疾患患者や重症患者の手術も多いため，質の高い教育を提供することができる．
2023年8月に手術室・集中治療室を含む新たな急性期診療棟が建設・開院され、ハイブリッド手術室を含む手術室においてさらに高度な手術に対応している。

⑥ **専門研修連携施設A**

北九州総合病院

研修プログラム統括責任者：青山和義

専門研修指導医：

青山　和義（麻酔）

竹田　貴雄（麻酔、ペインクリニック）

西村　昌泰（麻酔）

竹中　伊知郎（麻酔）

野上　裕子（麻酔）

佐藤　珠美（麻酔）

専門医： 添田　祐治（麻酔）

：奥村　美絵（麻酔・救急）

認定病院番号：447

特徴:当院は救命救急センターを有し、高度外傷をはじめ多彩な緊急手術を経験できる。神経ブロック併用の整形外科手術も多い。小児、胸部外科、脳神経外科、帝王切開などの経験必要症例もバランスよく研修可能である。

⑦ 専門研修連携施設B

川崎医科大学附属病院

研修実施責任者：戸田　雄一郎

専門研修プログラム連携施設担当者：戸田　雄一郎

専門研修指導医：

戸田　雄一郎（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
佐藤　健治（麻酔，ペインクリニック）
前島　亨一郎（麻酔，集中治療）
谷野　雅昭（麻酔，集中治療，感染管理）
黒田　浩佐（麻酔，集中治療）
櫻井　由佳（麻酔，集中治療）
池本　直人（麻酔，集中治療）
作田　由香（麻酔，ペインクリニック）

専門医：

楳田　佳奈（麻酔）
申　木蓮（麻酔，集中治療）
寺岡　和賀子（麻酔，集中治療）

麻酔科認定病院番号：77

特徴：心臓血管手術，脳神経外科手術，呼吸器外科手術，腹腔鏡下手術（ロボット支援下手術を含む），婦人科手術，小児症例など，幅広い症例を研修することができる．救急に力を入れている病院であり，緊急症例の麻酔管理なども経験できる．また，ICUも麻酔科が管理しており，集中治療の研修も充分行える．ペインクリニック外来，緩和医療，和痛分娩などの研修も可能である。

⑧　**専門研修連携施設B**

山口大学医学部附属病院（以下，山口大学）

研修プログラム統括責任者：松﨑　孝

専門研修指導医：松﨑　孝（麻酔，区域麻酔、集中治療、ペインクリニック）
脊戸山景子（麻酔）
飯田靖彦（麻酔，小児麻酔）
松本　聡（集中治療）
山下敦生（麻酔，心臓麻酔）
原田　郁（麻酔）
折田華代（麻酔，産科麻酔）
山下　理（麻酔，心臓麻酔）
名郷有紀（麻酔）
奥　朋子（麻酔、小児麻酔）
松尾綾芳（麻酔，区域麻酔、ペインクリニック）
佐藤尚子（麻酔）
内山史子（麻酔）
大野宏幸（麻酔）
川並俊介（麻酔、心臓麻酔）
井町優子（麻酔）

専門医：村上駿一（集中治療）
吉村沙記（麻酔）
辻　明李（麻酔）
津田小緒里（麻酔）
丸花翔一朗（集中治療）
村上　瞳（麻酔）

認定病院番号：63

特徴：ペインクリニック，集中治療，緩和ケアのローテーション可能
大学病院ならではの最新治療の経験やシミュレーター設備が充実

⑨　**専門研修連携施設B**

琉球大学病院

研修実施責任者：垣花　学

専門研修指導医：垣花　学（麻酔）
中村清哉（麻酔，ペインクリニック、緩和）
渕上竜也（麻酔，集中治療）
大城匡勝（麻酔）
照屋孝二（麻酔，集中治療）
野口信弘（麻酔）
神里興太（麻酔，集中治療）
宜野座到（麻酔）
仲嶺洋介（麻酔）
渡邉洋平（麻酔）
桃原志穂（麻酔）
幾世橋美由紀（麻酔）
渡慶次さやか（麻酔，ペインクリニック）
小田浩央（麻酔，集中治療）
和泉俊輔（麻酔）
林　美鈴（麻酔，集中治療）
松尾敬介（麻酔）
新里勇人（麻酔，ペインクリニック）
山川翔太（麻酔）
我喜屋亮太（麻酔）

専門医：福地万寿美（麻酔）
兼島充基　（麻酔）
知念加奈子（麻酔）

麻酔科認定病院番号　49

特徴：先進的な幅広い症例が経験でき、指導体制も充実している。
集中治療、ペインクリニックを含む集学的な周術期管理を学べる。

専門研修指導医の所属人数（人）	本プログラム専門医研修指導医按分後の人数（人）
20	0.1

⑩　専門研修連携施設B

北九州市立医療センター

研修プログラム統括責任者：加藤　治子

専門研修指導医：加藤　治子（麻酔、ペインクリニック）
齋川　仁子（麻酔）
原賀　勇壮（麻酔、緩和ケア、ペインクリニック）
武藤　官大（麻酔、ペインクリニック、災害）
武藤　佑理（麻酔、ペインクリニック）
神代　正臣（麻酔、緩和ケア、ペインクリニック）
豊永　庸佑（麻酔）
松山　宗子（麻酔）
中野　涼子（麻酔、心臓血管麻酔）
小川　のり子（麻酔、ペインクリニック）
岡田　久乃　（麻酔、産科麻酔）

麻酔科認定病院番号：316

麻酔管理委症例数：3570

特徴：高度型がん診療拠点病院であり、ロボット支援手術を筆頭に高度がん医療の麻酔管理を行います。総合周産期母子医療センターも有しており、超緊急帝王切開を含め産科急患や、出生直後の新生児外科症例を経験します。ペインクリニック（ペインクリニック学会指定研修施設）や緩和ケア（がん治療支援）も学ぶことができます。

⑪　専門研修連携施設B

熊本大学病院

研修プログラム統括責任者：平田　直之

専門研修指導医：平田　直之（麻酔、集中治療）
杉田　道子（麻酔）
生田　義浩（麻酔）
鷺島　克之（麻酔、集中治療）
丸田　豊明（麻酔、集中治療）
江嶋　正志（麻酔、集中治療）
小松　修治（麻酔、ペインクリニック）
山田　寿彦（麻酔、ペインクリニック）

荒木　美貴（麻酔）
石村　達拡（麻酔）
徳永　祐希子（麻酔）
林田　裕美（麻酔）
林　正清（麻酔）
柚瑠木　朋子（麻酔）
中嶋　健（麻酔）
和田　麻菜美（麻酔、集中治療）
中村　真吾（麻酔）
宮川　直子（麻酔）
冨田　香（麻酔、集中治療）
専門医：田島　功一朗（麻酔）
丸山　桜子（麻酔）
大石　将之（麻酔）
是松　伸之介（麻酔）

認定病院番号：34

特徴：　大学病院としての多くの麻酔科管理症例を経験でき、必須である小児、帝王切開、心臓外科、胸部外科、脳外科の症例数が豊富である。手術室麻酔以外にも集中治療、ペインクリニック、緩和ケアをローテーション可能である。産科麻酔講座があるため無痛分娩の管理や、区域麻酔としてのエコーガイド下テクニック、ペインクリニック領域での透視下ブロックなどの手技も学ぶことができる。

麻酔科管理症例数　5953 症例

	2025 年度
小児（6 歳未満）の麻酔	110 症例
帝王切開術の麻酔	222 症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	347 症例
胸部外科手術の麻酔	450 症例
脳神経外科手術の麻酔	312 症例

⑫　**専門研修連携施設B**

四国こどもとおとなの医療センター

研修プログラム統括責任者：多田文彦

専門研修指導医：多田文彦（麻酔，集中治療，緩和ケア）

甲藤貴子（麻酔）

山田暁大（麻酔）

研修委員会認定病院取得 認定番号　1636

特徴：中讃地区で中心的な役割を果たす施設．小児・産科・心臓手術などが比較的多く他の様々な手術麻酔も研修可能.

（参考）

2025 年度麻酔科管理全症例数：2615

胸部外科：8

脳神経外科：40

心臓血管外科(1 群)：77

心臓血管外科(2 群)：42

帝王切開：213

小児(6 歳未満)：356

⑬　**専門研修連携施設B**

健和会大手町病院

健和会大手町病院

研修実施責任者：下里　アキヒカリ

指導医：星野　典子（麻酔）

下里　アキヒカリ（麻酔、集中治療）

松尾　智子（麻酔）

大城　茜（麻酔）

大城　正哉（麻酔）

専門医：塩塚　健太（麻酔、集中治療学会）

津田　太陽（麻酔）

認定病院番号：1346

特徴：健和会大手町病院では、救急告示病院として1次から3次救急まで年間約8500台の救急車を受け入れています。また、急性期だけでなく、一般病床と療養型病床をあわせもつケアミックス病院です。周辺地域に対しては、地域医療支援病院として、地域の開業医や施設と連携して地域ネットワーク作りを積極的に行っています。
麻酔科研修においては外傷を中心とした急性期の手術麻酔のみならず、救急外来や集中治療室のローテーションも可能です。

麻酔科管理症例数 1738症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	30症例

⑭　専門研修連携施設B

聖隷浜松病院

研修プログラム統括責任者：鳥羽好恵
専門研修指導医：鳥羽好恵（麻酔）
小倉冨美子（麻酔）
鈴木清由（麻酔）
奥井悠介（麻酔）
池上宏美（麻酔）
近藤聡子（麻酔）
日比野世光（麻酔）
林伶奈（麻酔）
林美帆（麻酔）
菊池高史（麻酔）
堤 啓彰（麻酔）

認定病院番号;233
特徴：心臓血管外科麻酔、周産期麻酔を含め、各分野において新生児から成人の様々な手術麻酔を経験可能。
心臓血管麻酔専門研修医認定施設、集中治療学会専門研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設。

⑮ 専門研修連携施設B

地方独立行政法人福岡市立病院機構　福岡市立こども病院

研修実施責任者：

水野　圭一郎

専門研修指導医：

水野　圭一郎（麻酔）

泉　薫（麻酔）

住吉　理絵子（麻酔）

藤田　愛（麻酔）

小栁　幸（麻酔）

伊藤　恵（麻酔）

百瀬　未来（麻酔）

認定病院番号：205

特徴:サブスペシャリティとしての小児麻酔を月 30〜50 例のペースで集中的に経験できる。新生児を含む小児全般の気道・呼吸・循環管理の実践的な研修が可能。地域周産期母子医療センターであり、超緊急を含む帝王切開や双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼などの周産期手術の麻酔管理も経験できる。外科・整形外科・泌尿器科・産科の手術では硬膜外麻酔・神経ブロックを積極的に用いている。急性痛治療にも力を入れており、麻酔科主導で硬膜外鎮痛や PCA を管理している。先天性心疾患の手術件数・成績は国内トップレベルを誇り、研修の進達度に応じて複雑心奇形の根治手術・姑息手術の麻酔管理の担当も考慮する。

⑯ 専門研修連携施設Ｂ

山口県立総合医療センター

研修プログラム統括責任者：田村　尚

専門研修指導医：田村　尚（麻酔）
若松弘也（麻酔，集中治療）
中村久美子（麻酔，ペインクリニック）
中村真之（麻酔，心臓麻酔）
角千恵子（麻酔，小児麻酔）
福本剛之（麻酔）

専門医：棟久晃司（麻酔）
棟久槙凜子（麻酔）

認定病院番号：228

特徴：地域の中核病院で複数の診療科がある。ペインクリニック，集中治療の研修も受けられる。周産期母子センターもあり、新生児からの小児麻酔症例も多い。

5. 募集定員

2名

（＊募集定員は，4年間の経験必要症例数が賄える人数とする．複数のプログラムに入っている施設は，各々のプログラムに症例数を重複計上しない）

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

①　採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（毎年９月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

②　問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，小倉記念病院麻酔科専門研修プログラム website，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

小倉記念病院　麻酔・集中治療部 副病院長　角本　眞一
〒802-8555
福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号
TEL 093-511-2000
E-mail　jinji-2@kokurakinen.or.jp
Website　www.kokurakinen.or.jp

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

8. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する.

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる.

専門研修２年目

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる.

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し, さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと, 安全に行うことができる. また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する.

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる. 基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが, 難易度の高い症例, 緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる.

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する. 研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される.
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う. 研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる.

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、北九州市にある北九州市立医療センターが研修連携施設に入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。また、北九州市立医療センターでは十分な指導医の数と指導体制が整っているが、指導体制が十分でないと感じられた場合は、専攻医は研修プログラム統括責任者に対して直接、文書、電子媒体などの手段によって報告することが可能であり、それに応じて研修プログラム統括責任者および管理委員会は、研修施設およびコースの変更、研修連携病院からの専門研修指導医の補充，専門研修指導医研修等を検討する。

15.専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．